

優良賞

ありがとうが心をつなぐ

真鶴町立真鶴中学校二年 松本 彩那

助け合える社会を実現するためにはどうすれば良いのだろうか。助けを求めることも、人を助けることもとても勇気がいることだと思う。

でも、私たちは人に助けしてもらわないと生きていくことはできない。一日の生活を振り返るだけでもたくさん助けがあるだろう。例えば、朝早くからニュースがやっていること。これは、早起きをして報道してくれる人がいるからこそのことだ。今、私たちが着ている服も誰かが作ってくれている。いつも食べるご飯やお弁当も、食品を作ってくれたり、家族が料理をしたりしてくれている。洗濯や勉強なども同様だ。私たちはこのように、たくさんの人に支えられているのだ。

そこで私は「ありがとう」の言葉が必要だと思う。「ありがとう」と言われると心が温かくなったり、認められたような気持ちになったりする。そうすると、やって良かった、また助けようという気持ちになり、周りに気を配ったり、他の人の気持ちを考えてられるようになるのではないか。実際に私も、重い物を持っていて困ってそうな友達がいた時、物を持ったことがある。運び終えると「ありがとう」と友達は私に言った。その時に私はまた勇気を出して行動しよう、困ってそうな人に気付けるようにしよう、そう思うことができた。

また、「ありがとう」と言うと言われた人だけではなく、言った方も「次は私が助けよう」と思えると思う。そのため、勇気を振り絞って助けた先の「ありがとう」には、助け合いの輪を広げる力があるのだ。

しかし、「ありがとう」と素直に伝えるのは簡単なことではないだろう。私自身、日々の生活で助けてもらい感謝すべき場面がたくさんあるのにも関わらず「ありがとう」と伝えられているのは片手で数えられるほどだ。恥ずかしい、素直になれ

ないなど理由は人によって様々だが、「ありがとう」と言う習慣をつければいいと思う。習慣になれば、気恥ずかしさがなくなり伝えやすくなるだろう。だが、「ありがとう」が習慣づいたとしても、それが流れ作業になってしまい気持ちがこもっていないければ、意味がなくなってしまう。ご飯を食べるとき、ご飯を食べるのは習慣だが「美味しい」と心から思うことと同じように「ありがとう」と言う習慣をつけながらも気持ちを込めて言うということが大切だ。これを実現させるためには、一人一人の意識が必要だ。

だから私はこれからは、素直に「ありがとう」とたくさんの人に伝えていきたい。どんな人にも勇気を振り絞って「ありがとう」を伝えていきたい。また、私が「ありがとう」と言ってもらえるような行動をしていきたい。このように、一人一人が小さな意識をするだけで「ありがとうの輪」が広がっていくと思う。そしてこの「ありがとうの輪」が世界中へと広がったとき、助け合える社会は実現するのではないだろうか。